

## 「アウシュビッツを訪ねて」—それから1年—

1年半ほど前になります。シリアスなこの表題コラムは「異グ連ニュース」に相応しくないのではと思ひながら寄稿したものです。とは言いつつ、出来るだけ多くの人々に読んでもらいたいと願ったことも本音でした。

若かりし頃、彼の地を訪れたいと渴望しながら50年後の2005年凍てつく2月、遂に「アウシュビッツ」に行き着きつきました。年甲斐もなく何が何でも行かなければという思いだけに駆られ、スケジュールのすべてをここに合わせるの行動でした。ですから、目の当たりにした「絶滅収容所」はけっして脳裏から離れようはずもなく、いまだに夢界の中で反すうし続けています。

## 1. あまりの反響にタジタジする

当該ニュース掲載直後、或る友人から「ぜひ、500万人が目を通す有名なサイトに寄稿してほしい」との依頼を受けたのです。いささかの躊躇もありましたが「思いのたけ」を知ってもらいたい衝動に駆られ再寄稿することにします。

サイトにアップされた翌日、その反応は凄さまじいばかりでした。日々200通は下らないメールが殺到し、それも数日間続く羽目になります。「忘れかけていた『人間の侵した罪』を思い起させてくれた」「戦争は何をもたらしたかを初めて知りました」という好意的なメールが大半だったと記憶しています。

しかし、半月が経ったころからメールの内容が一変します。「あなたはユダヤ人がパレスチナの国土を侵しナチスと同じような暴虐を繰り返しているのを黙って見過ごせというのか!」「この寄稿のために迷惑を蒙る人がいることも考えずに、在りもしないことを書いた罪は許されない!」から始まりました。

## 2. なぜ、事実を書くのがいけないのか

やがて、検索サイトに文筆家と称する何某から名指しで「企業経営者が騙された」と題する露骨極まりない反論を突きつけられたのです。彼は「ホロコースト(ユダヤ人絶滅)はなかった」を紹介しつつ「アウシュビッツにガス室はなかった。チクロンBは風の駆除剤である」にもかかわらず「何に一つ検証する能力もない他愛無い企業経営者」が好き勝手に書いたため「折角、私たちがガス室を否定証明してきた努力は無に帰した。火に油を注ぐようなことをしてくれた」と口汚く罵ってきたのです。当初、何と薄っぺらで感情的な反論だろうと相手を無視しつついましたが、時間の経過と共に込上げる怒りは抑え切れませんでした。なぜ、目で見た事実をそのまま書いたことが、ここまで非難されるのか理解に苦しみました。穿った見方をすれば私の書き様が「素人離れ」して他に及ぼす影響が大きいと考えたのかもしれない。「もの書き」を業とする者がめぐしらを立てて挑んできたのですから愕然とするほかなかったのです。

ただ、第2次大戦直後のニュールンベルク裁判時期を除き、ソ連の「くびき」から解放されて今に至るまで「アウシュビッツ」を正面から論ずることが「タブー視」されてきたのと深く係わりがあることは紛れもない事実です。たしか1995年ごろのことです。とある雑誌が「ホロコーストは物語」「ガス室はなかった」「科学的根拠のない捏造である」とした否定論を特集し大反響を呼び起こしました。瞬間に世界中のユダヤ人団体から強烈な反発を受け、雑誌は廃刊の憂き目に会う事件が起こったのはご存知の通りです。多分に「政治的圧力」を受けたのではないかと思われる節が各所に見聞された出来事でした。

## 3. ネットワーク時代にはらむもの

さて、私は「何時でも何処でも誰とでも」自由に情報が行き交うネットワーク時代の「気軽さ」と「恐ろしさ」を身をもって知ることになったのです。

「顔の見えないネットワーク上の議論」が一度こじれると際限のない「憎悪」を生み出し果ては互いに傷つけ合う結果になるとは誰が想像したでしょうか。つまり、「文字や数値」が電波に乗って世界中を駆け回ることが社会や人々のために役立つと考えて来た単細胞人間にとって言葉を絶する衝撃でした。

この事実はいくら世の中が進化し便利になっても有史以来「人間の業」は変わりようもないことを証明したともいえます。いかに科学的な客観的な事柄であっても、一旦「業=感情」が入り込めば人はこれに支配されてしまうのです。まして相手にドロドロしい「政治的忖意」があれば尚更のこと、自由でオープンな議論を許さない「見えない抑圧と強制」があちこちに見え隠れしているのが現実です。そこには「ユビキタスネットワーク時代」とは何ら関わりない別の世界がうごめき続けているのです。

齢70にして、あえて「青臭い」ことを申し上げるのは、他でもない「事実を認識しなければ人間の進歩はない」からです。

## 産学官交流サロンのコーナー

## 第17回横須賀サロンの開催案内

日 時：11月21日(火) 18:00～20:30  
場 所：神奈川新聞社・横須賀市支社 5F会議室  
スピーカー：横須賀市緑地管理課 主査 保坂俊美氏  
「ソレイユの丘―構想から実現へ」  
～日本初のPFI手法による都市公園整備事業  
会 費：1,000円(ビールとおつまみ付き)  
連絡問合：八幡 045-633-5142, 鶴野 046-836-6785

## 第18回横浜サロン開催案内

日 時：11月16日(木) 18:00～20:30  
場 所：ヘリオス関内ビル2階会議室  
スピーカー：小林健一氏  
「川異研20周年記念に向けての取り組み」  
～BB川崎放送と産学連携～  
会 費：1,000円(ビールとおつまみ付き)  
連絡問合：T045-633-5142 F045-633-5194 池谷、杉本

## 第5回西湘サロンの開催案内

日 時：11月13日(月)18:00～20:00  
場 所：あいおい損保小田原支社(瀬戸ビル)3F会議室  
スピーカー：中澤酒造株式会社・代表取締役 鍵和田金吾氏  
「丹沢の地酒とわが社の経営」  
会 費：1,000円(ビールとおつまみ付き)  
連絡問合：T045-633-5142 F045-633-5194 芝、島津俊之

## 第17回川崎サロン開催案内

日 時：H19年1月16日(火) 18:00～20:00  
場 所：神奈川サイエンスパークKSP西棟  
7階703会議室  
スピーカー：KSP取締役・志茂武氏  
会 費：1,000円(ビールとおつまみ付き)  
連絡問合：T045-633-5142 F045-633-5194 芝、渡部

## おなじみ尾上町サロン(通称ワンコイン)

地道に続いていますよ！連絡は特にいりません。ブラッとお出でください！

日 時：(毎月第一・三金曜日)11月17日、12月01日、12月15日 17:30～19:30

場所：異グ連事務所神奈川中小企業センター5F 会費：ワンコイン(500円) 問合：芝、八幡、島津龍、鈴木

関連グループや組織のセミナー情報

## 中小企業会計啓蒙普及セミナー

内容：「中小企業の会計」の意義と必要性を再確認し、経営上の悩み、お金と価値の流れ及び新会社法関連の人材投資促進税制等を学ぶ。

日時：第一回11月08日(講師：島津龍男氏) 済み

第二回11月16日(講師：小林 巽氏)

場所：神奈川中小企業センタービル13F第3会議室

参加費：無料 募集：各回とも35名

申込：神奈川県異業種グループ 連絡会議

tel 045-633-5142 fax 045-633-5194

芝 忠、島津龍男、小林巽

## 中小企業技術革新(SBIR)制度の説明会 無料!

内容：①公的資金活用企業の体験談、②SBIR制度の説明、③最新情報、④応募のポイント、⑤申請書事例 等

日時：第一回 H18年10月03日(火) 済み

第二回 H18年11月14日(火)

第三回 H19年01月23日(火)

いずれも13:30～16:30

場所：神奈川中小企業センタービル6F大研修室

問合せ・申込：(社)日本技術士会神奈川県技術士会

tel 045-210-0337 fax 045-210-0338 [kcea@k06.itscom.net](mailto:kcea@k06.itscom.net)

## 県立川崎図書館の連続講座「サイエンスカフェ～科学のココロを育てましょう～」

お茶を飲みながらアットホームな雰囲気の中で、若手研究者と気軽に語り合えるサイエンスカフェをNPO法人サイエンスステーションと東京大学の協力を得て開催します。(毎週土曜日 午後1時30分～4時)

会場＝神奈川県立川崎図書館 2階ホール 受講料＝1回1,000円(飲み物は各自ご持参ください。)

第1回：11月18日 日本人の得意技を生かす衛星・ロボット・携帯電話 田中泰生氏東大科学技術振興研究員

第2回：11月25日 超ミクロの世界への旅～ナノテクからクォークまで 山崎詩郎氏東大大学院物理学専攻

第3回：12月2日 脳の高次機能に迫る～認知記憶システム～ 木村紘子氏東大大学院機能生物学専攻

第4回：12月9日 分子でナノマシンはつくれるか 竹沢悠典氏東大大学院理学系研究科化学専攻

第5回：12月16日 太陽系外に惑星を探せ！ 藤原英明氏東大大学院理学系研究科天文学専攻

申込み・問い合わせ先＝神奈川県立川崎図書館 産業情報課

TEL：044-233-4537 FAX：044-210-1146 E-mail：[sanjou-kl@open-kanagawa.ed.jp](mailto:sanjou-kl@open-kanagawa.ed.jp)

## 品質管理セミナー(無料)

日 時：11月30日(木) 13:00～16:00

場 所：神奈川県産業技術センター 3F 7,8 講義室

演 題：品質マネジメントと人材育成

富士ゼロックス(株) 竹松工場長 松本修二氏

問 合：神奈川県産業技術センター 交流推進室

TEL. 046-236-1500(内線2206) FAX. 046-236-1527

## 最新工業材料シンポジウム【展示・実演・講演】無料

日時：11月22日(水) 13:30～17:30

会場：横浜市工業技術支援センター6F(A、B会場)

基調講演：新材料/新技術とビジネスマッチング

名取達雄技術士

申込問合：工業技術支援センター 担当：鈴木・相馬

電話 045-788-9000 申込用FAX 045-788-9555

## かながわ異グ連の会員グループやプロジェクトの状況

### H18年度アルメニアプロジェクト

加藤文男BC

昨年に続いてアルメニアから研修生を迎えることになった。独立行政法人 国際協力機構（JICA）からの平成18年度「アルメニア中小企業人材育成」に関する受託事業である。

（アルメニアについては、異グ連のC&S ホームページをご参照ください）

昨年の研修生は、日本でいえば中小企業庁及びその傘下にある中小企業の振興に携わる地方行政機関の方々であったが今年は現地の民間会社でコンサルタントや研修のトレーナーをしている方々を中心に女性2名を含む6名である。JICAは、本年の夏、現地へ3名の研修の日本人専門家を派遣してマーケティング、労務及び生産管理に関する研修を行ったが、そこで受講した研修生の中から特に優秀な方々を研修生として決定したものである。

研修期間は、11月21日に来日し、12月12日までの約3週間。異グ連として、11月23日から12月11日まで研修を担当する。本年の研修内容は、コンサルタント及びトレーナーが中心なので企業や商店街の診断を中心に中小企業振興施策、人材育成関連の実務を学んでいただく予定である。また、アルメニアの将来のビジネスとして観光事業が要望されているので観光事業のあり方や日本における観光振興に関するいくつかの事例を紹介することも考慮している。アルメニアではセバン湖という大きな湖が観光地となっており、条件の類似した箱根の芦ノ湖などを中心に案内することも検討中である。

訪問先として、企業診断では、3つの製造企業とひとつの商店街を予定している。更に中小企業振興に関する支援制度や研修事業、人材育成のプログラムについては神奈川中小企業センターを始め、中小企業大学校、中小企業団体中央会、コンサルタント企業などにご協力を頂くべく交渉中である。

### 第69回日韓ビジネス協議会 高橋導徳BC

**日時：11月24日（金）18:00～20:30**

**場所：神奈川中小企業センター5階会議室**

**内容：詳細内容は追って決定致します。**

尚、協議会後は懇親会を開催致します。

**会費：1,000円（懇親会も含む）**

関心ある企業の参加者を歓迎致します。

**連絡申込：TEL045-311-0094 高橋迄**

**MAIL：[mtakahas@tb3.so-net.ne.jp](mailto:mtakahas@tb3.so-net.ne.jp)**

**今回「日韓関連特集」を付録としてまとめていますのでぜひご参照下さい。**

### 新環境舗装プロジェクト 織方BC

去る10月18日（水）海老名の神奈川県産業技術センターにて「神奈川産学公連携交流研究会」があり、当プロジェクトも発表を行い好評を博しました。

プロジェクトも4年目となり関連製品へのメニューは広がりつつありますが、量産化への課題が山積している状況です。今年度（H18年度）の神奈川県コンソーシアム事業へ採択いただきました。これをバネに幅広い市場への参入を計画しております。今後状況を逐一報告したいと思いますので、皆様のご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

連絡：045-633-5192 コンソーシアム担当・織方

### まんてんプロジェクト最近の話題

千田BC

- (1) 長岡市で開催された(財)いしがた産業技術創造機構が主催する、いしがた産業技術交流フェア2006にまんてんプロジェクトが出展した。新潟県において「まんてん」の知名度がすでに高くなっていたことが判明した。
- (2) 9月発足後、航空宇宙産業研究会は10月に2回開催しヒアリング調査を行なう企業と担当者などを決定した
- (3) 早稲田大学理工学部技術総合センターが、中小企業との産学連携により宇宙開発・研究のプロジェクトを立ち上げた。早稲田大学の理工学部の研究室と社外の企業が連携し、JAXAも協力して研究開発センター産学研究センターを構築する。社外企業の幹事はまんてんプロジェクトの山口氏。
- (4) 関東経済産業局が航空宇宙に対する中小企業の取り組みを強化する為、まんてんプロジェクトのほか広域関東圏における中小企業の取り組みを調査する研究会がスタートした。委員長は東京大学の中須賀教授。委員会にはまんてんから芝、山内の両氏が委員として参加している。調査は(財)広域関東圏産業活性化センター（GIAC）が実施する。広域関東圏とは関東経済産業局の所轄圏。1000社程度に関し調査を行なうとしている。
- (5) (株)JASPAは交通の利便性を考慮し営業本部を東神奈川に移行した。
- (6) 10月に開催予定であった18年度のまんてんプロジェクト全体会合は、講師の都合により、11月15日に開催することとなった。
- (7) まんてんメンバーの水上飛行機開発事業協同組合が、政府に対し「ULP（Ultra Light Plane）特区」のアイデアを提出した。全国の離島や過疎地の経済活性化のために、航空管制領域のないこれらの地域では、一般には半径9km以内の空域の飛行しか認められていないULPが自由に飛行できるようにし、飛行クラブの誘致やイベントの開催などによって活性化を図るという提案である。スカイスポーツの振興や観光開発にも役立つと想定している。政府は一般から直接に特区や規制緩和のアイデアを募集しているが、この提案はまんてんプロジェクトが会員となっている(社)日本ニュービジネス協議会との共同提案として提出した。

**第9回・国際交流支援協議会**

岡田めぐみ協議会会長

第8回は「ハロウィーン party」でした。大人子供年齢問わず、62名の参加を得て盛大に行うことができました。第9回は今年最後の国際交流クリスマスパーティーを企画いたしております。1年間の活動を振りかえり、来年度のエネルギーにつながる国際交流会となることでしょうか。皆様のご参加、お待ちしております。

**日時：12月16日(土) 18時～** 会費：2000円+2人分のドリンク

場所：横浜市中区真砂町4-43 木下商事ビル8階 横浜留学センター内

問合せ先：e-mail：yrc@ies-world.com fax：045-633-5184 担当岡田めぐみ 氏名、会社名、TELご連絡ください。

**第50号記念特別寄稿****引き際のタイミング**

C&amp;Sグループ会長 村上嘉男

日本シリーズが日本ハムの優勝に終わりそれとともに新庄の引退ショーも幕をひいた。このシリーズが始まった時期にお立ち台に立ったときに引退を宣言したがその時にはこのような幕引きになるとは、誰もが考えていなかったが今にして思えば考えられる最高のタイミングになり、なんと運の良い人間だと感心するばかりである。

新庄については今まで多く語られており今更改めて述べる必要はないが、今まで野球評論家と称するOBが事あるごとに根性を持ち出したのに比べ新庄は飄々といとも軽々と野球の楽しさを皆に教えた第一人者である。

ただ30台前半での引退宣言があまりにも早すぎ我々の意表をついたものであったが今まで数多くの経済人、自治体首長等の引き際を見ると何故早く引退しなかったか飛ぶ鳥後を濁す例が多すぎる。その中で一番さわやかであったのがホンダ技研の本田宗一郎である。多くの経営者たちが無理をしつつも我が子に事業をバトンタッチしようとしたのに彼は自分の息子は無理であると見極めあえて事業の継承をしなかったことは特筆に価することである。

高齢化時代を迎え寿命が延びるのは良いがいつまでも企業の代表の座にしがみつきその挙句企業を破滅に追いやった、そごうの元水島会長などはその代表的なものである。最近では福島県の前県知事が5選目にして汚職がばれ石を持って追われる様は「生き永らえて恥多し」を地でいくものであり情けないことである。

年をとるとだんだんと人の意見を受け入れることをしようとしないう傾向に有るがやはり家族とか友人等が強力にアドバイスをして別の生きがいに向かわせることが必要であろう。

<編集室> **50号に到着して**

芝忠

昔、といっても30年位前、神奈川県職員労働組合の商工協議会という組織があって、機関紙「商工」というニュースを発行していたときがあった。私が代表幹事だった。ちょうど協議会結成の準備段階から、正式結成へ至る間の2年間の重要な時期に、50号発行記念集会和協議会結成1周年記念集会和を合わせて開催したことを思い出す。いわゆるガリバン刷りのB4版、裏表2頁建ての通常版だったが、そのときは活版で4頁の特集号が出た。県職労のなかの組織は本部・支部・分会という縦割りの組織が通常であったが、組織改革の中で、行政部門別の協議会という横割りの組織づくりが認められ、当時の若者？達が意欲的に取り組んだものだった。旧来の賃金闘争とは異なり、商工部という日常の政策実施部局を相手に、職員の処遇問題だけでなく、商工行政の政策提案運動を行い、当局側からも高く評価された。今異グ連がある中小企業センターの建物づくりについても、政策提言したことがある。海老名の産業技術センター(旧産業技術総合研究所)づくりについても、組合内部では独擅場であった。

当時、出来たばかりの新しい組合組織(商工協議会)が組合員や当局から受け入れられるのか大変心配であった。基本組織と異なり、財政的にも極めて困難な中で、結果的には県職労の中でもっとも権威ある政策運動体としての評価を得ることに成功した。その成否が実は50号記念集会の到達点だったと言える。当時の関係者として、ビジネスコーディネータの杉本・滝沢・愛・高木の各氏や、(財)神奈川中小企業センター相談室の奥山氏、さらにはKSPの志茂氏なども挙げられる。大変幅の広い組織活動を展開した。

異グ連ニュースも早や、50号を迎えたということは、第一段階に到達したということで、担当の小野川・相楽両氏に大いに感謝したい。「商工」ニュースの評価を行った当時の県職労本部役員によると、政策問題提起はいいが、組合員の生の声をもっと載せろという指摘がある。それに比較すれば、異グ連ニュースは事務局方ばかりでなく、いろんな関係者が分担しており、数段レベルが高い機関紙とも言える。今後も、会員グループや、法人・個人会員の声を紹介していければと期待したい。50号に奢らず、今後も親しみやすい内容で、かつ日本の異業種交流活動に常に一石を投ずる役割を果していこうではないか。.....

\* “継続は力なり” をモットーに、奇をてらわず、サプライズも求めず、途切れることのないようにただただ続けて4年を超えました。続けられたのは毎回原稿を寄せていただく方々が居られる事でした、心から感謝申し上げます。今後は会員(グループ、企業、個人)の活動紹介をもっと取り上げたく、ご投稿・ご協力ください。(会報担当)

ご投稿を歓迎いたします。かながわ異グ連事務局 tel, 045-633-5142 fax, 045-633-5194 芝、八幡、島津(龍)、杉本

(会報編集担当) mail [onogawa@hkg.odn.ne.jp](mailto:onogawa@hkg.odn.ne.jp) 小野川、相楽